



今年も卒業生が、教育実習に来ています。高校生にとっては、目指している学校の先輩に具体的な大学生生活の様子が聞けますし、学校は違っても大学の勉強や学校生活など話が聞ける良い機会です。中学生は、実習生の先生に大学でどのようなことを学んでいるのかを尋ねたり、なぜその分野の勉強をしようと思ったのかを聞いてみるのはどうでしょうか。

年齢の近い先輩から聞かせてもらった話は、心に残るものです。この機会に実習生の先輩から、いろいろなことを吸収しましょう。

今月のおススメ

著者（野口聡一さん）は宇宙飛行士として、3回宇宙へ行っています。最初のミッションの時には、3回の船外活動を行い、その後も宇宙での様々な活動を行いました。今月、6月1日付で宇宙航空研究開発機構（JAXA）を退職したばかりです。

この本が出版されたのは、10年ほど前です。厳しい試験を受けて宇宙飛行士になった野口さんですが、そのきっかけは、15歳の時、テレビで見た「スペースシャトルの打ち上げ」の映像でした。それに衝撃を受けた野口少年は「宇宙に行きたい！」と思います。ありがちなきっかけですよ。でも、「宇宙に行きたい！」という思いから、それを実現させるのは、並大抵のことではありません。心に芽生えた「思い」をずっと持ち続け、実現させたパワーの源は一体何だったのでしょうか。この本から、そのヒントが得られるかもしれません。

航空エンジニアとしての知識や技術を生かした宇宙での活動だけでなく、未来を担う子供たちに向けて宇宙から無重力の不思議さや面白さなどを伝えてくれた野口さん。JAXAを退職されても宇宙には関わって行くようです。かつて野口さんがスペースシャトルの打ち上げを見て「宇宙」に憧れを持ったように、彼の姿を見て第二の「野口少年」が現れるかもしれませんね。

『宇宙少年』（15歳の寺子屋）

のぐちそういち

野口聡一/著

講談社/刊